

Formula Blue

YAMAHA 5L KARTING

全日本カート選手権 FS125 部門東地域第 2 戦本庄大会
 ■開催日：6月2日～3日
 ■天候：晴れ ■参加台数：32台

木下藍斗、山中秀馬ともに決勝で挽回 揃ってトップ 10 フィニッシュを果たす !!

全日本カート選手権 FS125 部門東地域第 2 戦本庄大会が、6月2日～3日の2日間、埼玉県・本庄サーキットで開催された。普段は4輪用ミニサーキットとして営業している本庄サーキットはストレートが長く、またコース幅、コーナー曲率も大きい大型コース。スリップストリーム効果が大きく、レースは混戦となりやすい。
 普段はカートの走行機会が少ないコースのため、どの選手も経験という面ではほぼイコールの条件でレースを迎えた。

Time Trial/Qualifying Heat

今回も OK 部門と併催のため、タイムトライアルは土曜日午後に行われる2日間開催となる。32台がエントリーしたため、2組に分かれてのタイムアタックとなったが、木下藍斗、山中秀馬ともに、抽選で A グループを引き当て、先にタイムアタックを行うこととなった。昨年までは後からアタックする B 組が好タイムを出すことが多かったが、今回は A 組勢が上位を占め、木下が全体の4位となる好タイムをマークする。山中はトップから 0.2 秒差で総合 13 位を獲得し、予選へと臨んだ。

しかし、予選ヒートでは3周目のヘアピンで山中が他車と接触

しストップし、その後再スタートするものの、シャシーにメカニカルトラブルがないかチェックを済ませると、ピットへ戻りリタイアとなる。

木下はスタートで大きく順位を落としてしまい、1周目を10番手で終えると、混戦の中で他車との接触や縁石への乗り上げによりフロントフェアリングが脱落し、10周目にピットに戻りリタイアを選択する。

この結果、木下は予選 25 位、山中は 28 位となり、13 列目、14 列目から決勝での順位挽回を期してスタートすることとなる。

Final Heat

決勝ヒートは気温が 30℃ 近くまで上昇し、真夏日となった中でスタートを迎えた。木下、山中ともに序盤は下位～中位集団を抜け出すためパッシングを繰り返し、2台で編隊走行を続けながら順位を挽回していく。序盤の混戦状態が解消され、ペースアップが果たせる状況となると、他車のスリップストリームも有効に活用しながら、着実に順位を挽回していく。

レース中のベストラップでも、木下は全体の3位、山中も8位のタイムをマーク。トップグループと遜色のないペースで順位を挽回していく。

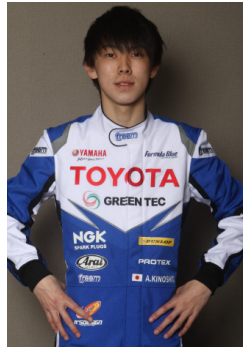


スリップストリーム効果が大きく、トップグループは6台ほどが連なる混戦となっており、レースが20周を超える頃には、まず木下がその集団の直後まで接近していく。山中も、その後集団に加わり、トップグループのレース展開次第では、さらなる上位進出も伺える位置で周回を重ねていく。

木下は、上位グループ後方の選手を確実に仕留め、最後は7位でチェッカーを受け、山中も10位まで挽回してゴールを迎えた。

山中は2戦連続でのポイント獲得、木下も今季初ポイントを獲得し、次回の茂原大会へ向け着実な前進を果たした。

30 Formula Blue チーム KBF



木下 藍斗 (チーム KBF/ 神奈川県出身 /17 歳)

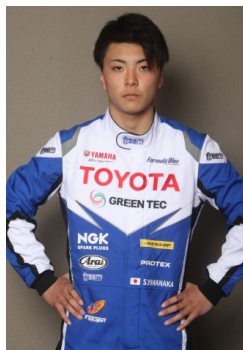
タイムトライアルはいい位置につけたのですが、予選のスタートで自分の位置取りに失敗し、集団に飲み込まれフロントフェアリングが脱落してしまいました。決勝は、徐々にポジションを上げることができました。表彰台圏内まで行きたかったのですが、序盤に集団を抜け出すまでに時間がかかってしまい、トップ集団との距離が開いてしまいました。最後はトップ集団に追いついたところでレースが終わってしまいました。スタートと混戦時の対応がこれからの課題だと考えています。

チーム代表：柳沢 和広【コジマブレンファクトリー】



前回からの課題である接近戦を克服するという面では、予選ヒートでまたカウルを落としてしまいました。決勝はしっかりとまとめてくるように話し、7位まで戻したことは評価しています。ただ、もてぎのときと同じで、タイムトライアルで4位になっているのに、自らのミスで順位を下げ、取り戻せずに決勝が終わるといった形となり、内容的には進化していないと考えています。課題は接近戦、スタート直後の大幅な遅れだけで、ちゃんとしてスタートをすれば上位争いの勝ち負けに持っているはず。足りないのは自信だけだと思うので、一回結果が出れば上位で安定できると思います。

50 Formula Blue BEMAX



山中 秀馬 (BEMAX/ 茨城県出身 /16 歳)

今日は、予選で絡んで止まってしまったので、フレームチェックだけしました。決勝はセッティングもいろいろと変えたことで動きが良くなり、序盤は少し集団に引かかった面もありましたが、徐々に順位を挽回できました。ただ、もう少し早い時期で集団を抜け出していれば、トップグループまで届いたのかなと思います。予選でトラブルなく順位を上げていければ、表彰台に届く手応えもありました。次回の茂原大会は、レースをしっかりと組み立てて、優勝できるようにがんばります。

チーム代表：小野尾 司【BEMAX RACING】



もてぎに続き、選手のポテンシャルを引き出せなかったのは可哀想だったと思います。タイヤゴムにより、路面が重くなったことにドライバーが気づくのが遅れ、僕らも対応が遅れてしまいました。決勝は、やっと片目が開いたというか全日本の戦い方が少しはわかってきたのかなと思います。決勝では事前練習も含め全くやったことのないマシンセットにしました。ドライバーのコメントとは真逆のこともやったので、ドライバーの表現方法などはもう少し勉強しなければいけません。スピードも含め確実に前進はしていますが、ドライバーが自信を持って取り組めるように、練習からマシンバランスなどを整えて走れるように取り組みたいと思います。

全日本カート選手権東地域第2戦 RESULTS

Pos.	No.	Driver	Team	T.T.	Q.H.
1	37	大木 一輝	KP-BUZZ	39.236 (5)	(5)
2	4	塚田 海斗	FLAX motorsports	39.227 (3)	(3)
3	11	木内 秀桓	Birel ART Jr.	39.150 (1)	(4)
7	30	木下 藍斗	Formula Blue チーム KBF	39.231 (4)	(25)
10	50	山中 秀馬	Formula Blue BEMAX	39.355 (13)	(28)

全日本カート選手権東地域ポイントランキング

Pos.	Driver	Team	Points
1	木内 秀桓	Birel ART Jr.	49
2	大木 一輝	KP-BUZZ	47
3	高口 大将	Drago Corse	47
13	山中 秀馬	Formula Blue BEMAX	20
15	木下 藍斗	Formula Blue チーム KBF	14

EVENT CALENDAR

	East	Rd.1 22/Apr. MOTEGI	Rd.2 3/Jun. HONJO	Rd.3 1/Jul MOBARA	Rd.4 5/Aug. MOGAMIGAWA	Rd.5 9/Sep. SUGO	FINAL 18/Nov. SUZUKA
West	1/Apr. BIWAKO	20/May NAKAYAMA	17/Jun. APG	15/Jul. MIZUNAMI	26/Aug. KOHBE		